

「父親と同担は生理的に受け付けません！」

絶賛反抗期中の中学生・葛西恵(二七)は、スーパーアイドル『Plasma Boys』のリーダー・ジエホ(25)を推している。

ところが推しに会うために訪れたファンミーティングで、大嫌いな父・葛西武則(49)と鉢合わせるといふ事態が発生。

実は武則は、反抗期故に陰悪になってしまった親子仲を修復するため、娘の好きなアイドルをについて理解を深めようとPlasma Boysの曲を聞き始めたところ、娘以上にPlasma Boysの沼にハマってしまったのであった。

おまけに偶然にも武則の推しもジエホであるということを知り、父親を生理的に受け付けない反抗期の恵は「今すぐPlasma Boysのファンをやめろ」と父に迫るが、自分の意志でジエホを推している武則はこれを拒否し、親子仲は更に陰悪に。

そんな時、ジエホが兵役のため芸能活動を2年間休止するという、2人にとって最悪のニュースが届く。

ジエホの休止前最後のファンミのチケットを何とか入手しようとする恵と武則だったが、皮肉にも武則のみがチケットを手に入れ、恵は抽選に落選してしまふ。

武則はチケットを2枚取っていたので恵が頭を下げさえすればファンミに行けるが、父と一緒にファンミに行くなど恵にとっては言語道断。

武則には頼らず、SNSで知り合った他人からチケットを譲ってもらおうとして、言われるがままに定価以上の金額を支払ってしまう。しかし案の定それは詐欺であり、ファンミ当日にチケットを手渡ししてもらえると信じて現地へ向かうも取引相手は現れず、恵は途方に暮れる。

すると事情を知った武則がチケットを譲ってくれて、父の思いやりに触れた恵は自分の行いを後悔し、父への態度を改める。

恵と武則は推しを通じて、親子の仲を修復することができたのであった。

○ 登場人物

葛西恵（14） 反抗期の娘。

葛西武則（49） 恵の父親。

葛西治美（45） 恵の母親。

三好さくら（30） 武則の同僚。

藤水愛衣（14） 恵の友達。

麻倉七海（14） 恵の友達。

ジェホ（25） 恵と武則の推しアイドル。

韓国人。

リイ（18） アイドル。中国人。

ユヅル（19） アイドル。日本人

○ 公園（デート動画）

動画の視聴者＝彼女の、疑似デート動画の映像。ベンチに腰かけて待ちぼうけを喰らっているジェホ（25）。ふと彼女が来たことに気付いて、相手に近づきながら、ジェホ「おはよう！ …ううん、ボクもちょうどさつき来たところ。…その服、すっごく似合ってるよ。ボクのためにオシャレしてくれたの？ …可愛い」

○ 千人規模ライブハウス・フロア

前シーンのデート動画をスマホで見っていた、葛西恵（24）、激しく身悶えし始める。恵の恰好はいかにもスーパーPOPアイドルのファンという感じの量産型スタイルで、アイドルグループ『Plasma Boys』のグッズの青いTシャツを着ている。

恵「（声を押し殺しながら）ジェホ、かっこいいいいい…！」

恵の周囲にはたくさんのアイドルファン

の女の子たち。いずれも Plasma Boys のグッズを身に着け、それぞれ日本語・韓国語・中国語のうちわを手にしている。恵、グッズまみれの痛バッグの中にスマホをしまつて、『ジェホLOVE』『하트만들어』と書かれたうちわとサイリウムを両手に持つ。

○ 葛西家・居間

戸棚に葛西家の家族写真が飾られている。写真の中で恵は、母・葛西治美(45)と、父・葛西武則(49)に挟まれている。居間では治美が電話している。

治美「ああ、お母さん？ …恵？ 恵ならアイドルのコンサートに行っていないわよ」
写真の中の武則が笑顔を浮かべている。
治美「ええ、お父さんも仕事。どっちもしばらく帰ってこないんじゃない？」

○ 千人規模ライブハウス・フロア

女の子たちの黄色い悲鳴が轟く。

恵「きゃあーっ！」

音楽と共にステージに照明がつき、ステージ上にPlasma Boysのメンバー7人が現れる。それぞれ色の違うTシャツを着ているメンバーたちの中に、青いTシャツを着たジエホの姿が。

恵「ジエホーっ！」

武則「ジエホーっ！！！」

熱狂していた恵、ふと我に返って声の聞こえた方へ。

そこにいたのは、恵と全く同じTシャツを着て、全く同じサイリウムを持った恵の父、武則であった。

恵「…はあ!!」

武則、恵の視線に気づいて、恵の方に振り返る。

恵と武則の視線が合う。

恵「…お父さん…!」

『父親と同担は生理的に受け付けません！』

○ 葛西家・外観

3か月前のテロップ。

恵の声「ちよつとお！ 何してんの!!」

○ 同・居間

武則、女の子らしい柄のマグカップでコ
ーヒーを飲んでおり、きよんとした表
情で怒り迫る恵を見上げる。

恵、武則の使うマグカップを指さして、

恵「それ、あたしの専用マグカップだって言

ったじゃん！ なんで勝手に使うの!!」

武則「いや、たまたまそこにあつたから…」

恵、テレビを見ている治美に向かって、

恵「お母さん、あたしもうアレ使わないか

ら！ 新しいマグカップ買って！」

治美「なに言ってるの、あんたは。いいじゃ
ないの、お父さんが使ったって」

武則、しゅんとしてマグカップを置く。

○ 同・キッチン

恵のマグカップを洗っている武則、しょんぼりと切ない表情。

治美「仕方ないじゃない。恵ももう14歳で、立派な反抗期なんだから。あなただって昔は、お義父さんと殴り合いの喧嘩したって言ってたじゃない」

武則「：まあそうなんだけど：」

治美「恵もあと5〜6年もすれば、あの時は悪いことしたなって反省する日が来るわよ」
依然として武則の表情は切なげなまま。

○ 中学校・外観

○ 同・教室

休み時間中の教室の片隅で固まって、それぞれスマホを見ている恵と、藤水愛衣(一才)と、麻倉七海(二才)。

恵がスマホで見ているのはジェホのアー

テスト写真である。

恵「新しいアー写のジェホ、マジでヤバイ

…！ カッコよすぎて語彙力死ぬ…！」

偶然3人の席の真横を通りがかった女子

生徒A、恵のスマホに映るジェホを見て、

女子A「うわ、かっこいい！ 誰それ？」

恵、すぐさま目の色を変えて、女子Aに

凄まじい勢いで迫る。

恵「よくぞ聞いてくれました!!」

恵の勢いに引き気味の女子Aに対し、恵

は得意げにスマホ画面（Plasma Boys 全体

のアーテスト写真の画像）を見せる。

恵「（早口）いま大注目のスーPOPアイドル

『Plasma Boys』、通称プラボ！ 韓国のオ

ーディション番組発の7人組グループで、

日本人2人、中国人2人、韓国人3人がメ

ンバーの多国籍アイドル！」

○ 映像スタジオ（MV映像）

真っ白な背景の前でダンスパフォーマン

スを披露する Plasma Boys。

恵の声「（早口）キャッチーで耳に残る曲と、キレッキレのダンスで着実にファンを増やしているニュースター！それがプラボ！」

○ 学校・教室

恵、鼻息荒くジェホの画像が映るスマホ画面を女子Aに突き付ける。

恵「（早口）ちなみにあたしの最推しが、プラボのリーダーで最年長の25歳、韓国人メンバーのジェホ！しっかり者の頼れるオツパで、ダンスも歌もめちゃくちゃ上手くて、ファンサも神で顔が良い！」

女子A、困り顔で恵から離れていく。

恵「とりま一回ライブ動画見てみて！公式が上げてるから！ってかリンク送るわ！」

女子A「あはは…今度ね…」

○ 新大久保の街並み

○ スーパー店内

Plasma Boys のメンバーの写真がデザインされた缶コーヒーが売り場に並んでいる。それぞれジェホ、リイ(18)、ユツル(19)のデザインの缶を手にとってレジに向かう、恵・愛衣・七海。

恵「ジェホのコラボ缶やば〜！」

愛衣「これどうやって保管すんの？」

七海「うちリメイクしてペン立てにするー」

○ 新大久保のスイーツ店

それぞれ別の韓国スイーツを食べている、

恵、愛衣、七海。

恵「そういえば、アクスタの交換相手見つかったの？」

愛衣「いやもう全然！」

愛衣がスマホを取り出して、渋い表情を浮かべる。

スマホに映るのは、グッズ交換を持ちかけるSNS上のメッセージ。

愛衣「やっぱりリイ担はガチ恋勢多いせいか、グッズも争奪戦だわー」

七海「わかるー。リイとユヅルのファンは同担拒否めっちゃ多いしね」

同担拒否⇨同じ対象を推すファンと関わり合うことを拒むファンのこと、の説明テロップ。

恵「同担拒否って意味わからんよね。推しが人気あるの普通に嬉しくね？」

愛衣「いや、うちはちよつと気持ちわかる」

○ ファンミーティング会場（イメージ映像）
同じ「リイLOVE」と書かれたうちわを持った愛衣と女性ファンが並んでいる。

愛衣の声「たとえばうちじゃない別のリイ担の子が、ハート作ってもらったとして」

ステージ上のリイが愛衣の隣の女性ファンへ、指ハートを作ってウインクをする。
歓喜する女性ファンに対し、愛衣は納得いかなさそうな表情。

愛衣の声「なののうちにはハート作ってもらえなかったとしたらさ…」

○ 新大久保のスイーツ店

愛衣、少し怒った風に、

愛衣「なんつつつっであの子だけ!!…ってなっ
ちやうよね。そういうの気にするのも嫌
だし、じゃあ同担とは距離置いとこってな
るじゃん？」

七海「まあ推し方は人それぞれってことでい
いんじゃない？」

恵「はえー。ま、あたしは同士が多ければ多
いほど嬉しいけどなー」

○ 葛西家・キッチン（夜）

恵、スマホで空き缶リメイクの紹介をし
ている動画を見ながら、コラボ缶の中身
をコップに移す。

恵「で…：中身洗って、乾かして…：」
缶の中を洗い、水切りラックの中に置く。

治美の声「恵〜。お風呂入れるわよ〜」

恵「はーい！」

缶を置いてキッチンから出て行く恵。

○ 同・居間（夜）

治美がテレビを見て笑っている中、武則が買い物袋片手に帰宅してくる。

治美「おかえりなさい。牛乳、買ってきてくれた？」

武則「うん、ついでにアイスが安かったから買ってきた」

治美「あら！ ありがと、お父さん〜」

○ 同・キッチン（夜）

キッチンにやってきた武則、出しっぱなしになっているコーヒーと、水切りラックにある空き缶に気付く。

空き缶を手に取って、

武則「空か。ゴミはちゃんと捨てるよな〜」

○ 同・居間

風呂上がりの恵、髪を拭きながら居間へ
やってきて、

治美「恵、お父さんがアイス買ってきてくれ
たわよー」

恵「あ、食べる食べるー」

○ 同・キッチン

恵、キッチンへ来るなり表情が凍り付く。
恵の目の前で、武則がコップのコーヒー
を飲みながら、ジェホがプリントされた
空き缶を踏みつぶそうとしている。

ジェホの顔写真が武則の足で踏み潰され
る瞬間が、スローモーションで映る。

恵「いぎやああーっ！！！！」

慌てて武則を突き飛ばす恵。急に突き飛
ばされた武則、飲んでいたコーヒーを顔
面にもろに被る。

武則「うわっ!!」

恵、ペしゃんこになった空き缶を震える

手で拾い上げ、半泣きの表情。

恵「ジエホおおお：!!」

武則を思いつきり睨みつける。

恵「ジエホに何すんの、バカ！」

武則「え？」

恵「ほんと最低！ 一生口きかないから！」

騒ぎを聞きつけてやってきた治美と入れ違いに、恵が泣きながらキッチンを出ていく。

治美「どうしたの、大きな声出して！」

取り残された武則、何が何だかわからないという表情。

○ 同・恵の部屋（夜）

必死に引き延ばした空き缶を前に、本気で泣いている恵。

治美の声「それはお互い不運だったわね〜」

○ 同・居間（夜）

愉快そうに笑っている治美に対し、納得

のいかなさそうな武則。

武則「いや、空き缶がそこにあったらゴミだ
と思うだろ：」

治美、テレビをつけて、録画していた音
楽番組を映し出す。

治美「お父さんにとってはそうでも、あの子
にとっては好きなアイドルの現身みたいな
もののよ」

武則「そういうものかあ：？」

治美「ほら、これこれ。恵が好きなアイドル」

武則、テレビ画面を覗き込む。

テレビ画面には、インタビュー中の

Plasma Boys の姿が映っている。

ジェホ「ミュージック・ロワイヤルをご覧の
皆様、こんばんは！ ボクたち！」

メンバー全員が共通のポーズをする。

メンバー全員「Plasma Boys です！」

武則、真面目に画面を見つめながら、

武則「全員同じ顔に見える」

治美「今のアイドルの男の子ってみんな綺麗

だものねー」

武則「恵は誰が好きなんだ？」

治美「確か韓国人の子だって言ってたけど、

どの子かはわたしもわからないな」

武則、真剣に画面を見る。

○ レンタルCDショップ

スーパPOPの特集コーナーでPlasma BoysのC

Dを探す武則。

武則「ぷ：ぷ：。あつた！」

目当てのCDを見つけ、手に取ってジャ
ケットを眺める。

○ 自家用車内

車内の音楽デッキにCDを入れ、曲を再
生する武則。

車を運転しながら、身体を小刻みに揺ら
してリズムを取る。

○ 建設系企業オフィス・総務部デスク

こじんまりとした部屋の中に4つのデスクが並んでおり、そのうち1つに武則、武則の向かいのデスクに三好さくら(30)が座り、2人以外には誰もいない。

前シーンで聞いていた曲を鼻歌で歌いながら、事務仕事をしている武則。

さくら、武則をじっと見て、

さくら「：あの一、葛西さん：」

武則、はっとして、

武則「何？」

さくら「今の鼻歌、ひよっとしてPlasma Boysの『Labyrinth』ですか？」

武則「え？ 俺、鼻歌なんて歌ってた？ ……
っていうか、三好さんもPlasma Boys、知ってるの？」

さくら「知ってるもなにも！ 『Plasma Project』の初回から追っかけてますから、わたし！」

武則「へ？」

さくら「葛西さんがプラボ聞いているなんて意

外！ 娘さんの影響とかですか？」

武則「いやー：それが：」

○ 同・休憩スペース

自動販売機のある休憩スペースで、武則とさくらが飲み物片手に長椅子に並んで座っている。

さくら「へえ、娘さんと仲直りするため！」

武則「うん：。俺が娘の好きなものをよく知らなかったせいで、娘を怒らせちゃったから：。もつと娘に歩み寄ろうと思って：」

さくら「葛西さん、立派です！ わたしの親なんて、顔を合わせるたびに『いい歳してアイドルの追っかけなんてみつともない』って言うてきますもん。葛西さんみたいなお父さんを持てて、娘さん幸せですよ」

武則、照れくさそうに頭をかく。

武則「いや、でも思ってたよりも曲がカッコよくて、普通にハマっちゃったみたいだわ。頭の中でずっと曲がリピートしててさ」

さくら、ニヤリと笑って、

さくら「葛西さん、プラボは耳ではもちろんのこと、目でも楽しめるんですよ」

○ 葛西家・寝室（夜）

寝間着姿の武則、自身のスマホで Plasma Boys のライブ動画を見ている。

顔に美容パックをつけた治美、武則の様子を見ながら、

治美「珍しい、普段電話でぐらいしかスマホ使わないのに」

武則「うん、職場の子に色々教えてもらって」

× × ×

治美が眠りにつく中、武則はまだスマホで Plasma Boys の動画を見ている。

画面をスクロールしていくと、関連動画に「Plasma Boys わちゃわちゃシーン集」という動画が出てくる。

武則「Plasma Boys わちゃわちゃシーン集…？」

武則、動画を再生してみる。

動画の内容はテレビ番組の切り抜きで、
ジェホ・リイ・ユツルの3人が街ブラロ
ケをしている様子である。

○ 商店街（スマホ動画）

クレープ店でクレープを購入したジェ
ホ・リイ・ユツル。

ユツル「ジェホのやつ、一口ちよーだい」

ジェホ「えー!? 自分のあるじゃんよ！」

ジェホ、渋々ユツルにクレープを差し出
すと、ユツルが一口でクレープの大部分
を食べてしまう。

ジェホ「あー！」

してやったりなユツル、手を叩いて笑う
リイに対し、笑いながらも怒るジェホ。

ジェホ「何すんだよ、もー！」

○ 葛西家・寝室（夜）

武則、食い入るようにスマホ画面を見つ
めている。

○ 商店街（スマホ動画）

リイ、ジェホの肩を叩いて、自分を指差して「俺も食べたい」アピール。

ジェホ、肩を落としながらも渋々クレープを差し出すと、やはりリイもクレープの大部分を食べてしまう。

ジェホ「（怒って）おい！」

リイ・ユツル「（大爆笑）」

むくれ顔になるジェホに、リイとユツルが半笑いで謝る。

リイ「ごめん、オツパ！」

ユツル「オツパ、機嫌直してー！」

ジェホ、渋々といった調子でありながらも、美しい微笑みを浮かべる。

ジェホ「もく…いいよ」

○ 葛西家・寝室（夜）

武則、ときめいて胸を抑える。

武則「うっ…！」

○ 建設系企業オフィス・総務部デスク

武則とさくら2人だけのデスク。

武則「それで色々動画をみてたら、いつの間にか朝になっちゃって……。最後の方はライブの動画じゃなくて、ただただメンバーが仲良くしてる動画ばかり見てた！」

さくら、興奮気味に武則と握手する。

さくら「（早口）わつつつつかる、それ！！

プラボってほんとメンバーがみんな仲良しで、箱推しのしがいしかないというか、とにかく癒されるんですよね！！リイとユツルなんて付き合ってたのかってくらい仲良しで、この間なんか2人でお揃いのピアスして韓国の音楽番組出ましたからね！！
匂わせか！！匂わせなのかコノヤロウ！！
お互いのガチ恋ファンにメンバー自らマウントしてくるとかよお！！いいぞもつとやれ！！」

さくらの勢いに引き気味の武則。さくら、

落ち着きを取り戻し武則から手を放す。

さくら「ちなみに葛西さんは、プラボのメンバーだと誰が一番好きな感じですか？」

武則「俺？ 俺は：ジエホかなあ」

さくら「ほう！ ジエホですか！」

武則「なんかこう、他のメンバーに振り回されつつ、リーダーの役割を頑張ってこなし
てるのを見てると『この子はなんていい子なんだ：！』って思うんだよなあ」

さくら「わかる〜！！あのいじられキャラっぷりと、なんだかんだ年下に甘いお兄ちゃん感が、ぎゃんきやわですよね〜！！」

武則「ぎゃんきやわ：？」

○ 中学校・教室

休み時間中の教室で、ニヤニヤしながらスマホで動画を見ている恵。

動画の内容はジエホが出演している疑似デート動画であり、ジエホがカメラ目線で微笑みかけている。

ジェホ「今日はすごく楽しかったね。…ボク、
まだ帰りたくないな。ねえ、もう少し一緒
にいてもいい…？」

恵、激しく身悶えしながら、

恵「ひぎやああああ!! ジェホーーツ!!」

その場の床に倒れ伏せ、ゴロゴロと転が
る恵を、愛衣と七海が見守っている。

恵「うあーっ、マジでヤバイ!! ジェホの顔
が良すぎて泣けてきた!! あーあ、来世は
ジェホの彼女に転生できねーかなー!!」

○ スーパー（夜）

スーパーで買い物をしている武則。

ふと飲料品売り場を通りがかった時、

Plasma Boys のコラボ商品の缶コーヒーが
あることに気付く。

武則、ジェホのコラボ缶を手に取り、ハ
ツとする。

武則「…あ！」

《フラッシュバック》

武則がジエホのコラボ缶を踏みつぶすシン。

《フラッシュバック終了》

武則、申し訳なさそうな表情。

○ 葛西家・2階廊下（夜）

スーパ―の袋を腕に下げた武則、恵の部屋に向かってノックする。

武則「恵？ 起きてるか？」

返事はない。

武則「この間はごめんな。その…ちよつと入ってもいいか？」

やはり返事はなく、武則、恐る恐る扉を開ける。

○ 同・恵の部屋（夜）

部屋の中を覗いた武則、感嘆の表情。

部屋の中にはいたるところに Plasma Boys とジエホのグッズが飾られている。ポスター、タオル、アクリルスタンド

等々グッズのジェホに目を奪われる武則。

○ 同・2階廊下（夜）

2階のトイレから出てきた恵、自分の部屋を覗き込んでいる武則に気付き、

恵「何してんの!!」

驚く武則。

武則「あ、いや…」

恵「勝手に人の部屋に入らないでくんない!!」

恵、武則を押しつけて部屋に入り、乱暴に扉を閉める。

恵の声「マジでキモイ! あんなのに見られるとか、ジェホが汚れる!」

武則、しょんぼりとした様子でスーパーの袋からジェホのコラボ缶を取り出すも、すぐごとその場を立ち去る。

○ 建設系企業オフィス・休憩スペース

長椅子に並んで座る武則とさくら。武則は落ち込んだ様子。

さくら「…まあ、自分が反抗期の時に父親と
同担だったらって思うと、複雑ですけど…。
だからといって、変に気にすることないで
すよ！ 葛西さんだってプラボが好きなん
ですもの！」

武則、少しだけ表情が明るくなる。

武則「…そうだよな。好きなものは仕方ない
もんな」

さくら「はい！ これからはじゃんじゃん推
し活してきましょう！ 財力はこっちの方
が上ですし！」

武則「…でも、娘にはやっぱり、俺がプラボ
を…。中でもジエホが好きなのは、黙って
おこうと思う」

○ 千人規模ライブハウス・フロア

本編冒頭のライブハウスでの、恵と武則
がお互いに気付くシーンに戻る。

熱狂する観客の中、お互いを見合ってい
る恵と武則。

さくらの声「え？ どうしてですか？」

武則の声「いや…。今までアイドルとか全然興味なかったのに、今さらこんなにハマってるの知られるの、恥ずかしいし…」

さくらの声「あ…。父親の威厳とかありませんもんねー…」

○ 葛西家・居間（夜）

治美はおらず、恵と武則だけが居る居間。

恵が武則をビシツと指さして、

恵「なんで来てんの？！意味わかんない！！」

武則、気まずそうながらも負けじと、

武則「なんだよ、俺が行ったらダメなのか？！」

恵「つつーか、いつから？！アイドルとか全然興味なかったじゃん！」

武則「それは…お前がもう口きかないっていうから、仲直りするきっかけが欲しくて…」

恵「だからって、なんでよりによってジェエホ

なの？！父親と推しが被るとかマジ無理！」

武則、気まずそうにソファに腰かける。

武則「たまたま同じだったんだよ！ 恵もジエホを好きだって後から知ったし！」

恵「あんたが『ジエホ』って言うなよ、気持ちが悪いなあ！」

武則の眼の色が真剣なものに変わる。

恵「今すぐプラボのファンやめて！ あたしのジエホに関わらないで！」

武則「…断る」

恵「はあ!？」

武則、恵をきつと睨みつける。

武則「俺はな、見ての通りいい歳した中年のオヤジだ。今までアイドルのライブはおろか、音楽ライブにすら一度も行ったことがない。そんなヤツが、若くてカッコいいアイドルの男の子のライブに行くにはなあ、それなりに勇気が必要なんだ！」

すくつと立ち上がり、真剣な表情で恵に迫る武則。恵、困惑気味に後ずさる。

武則「俺の『好き』は俺だけのもので、家族だろうが何だろうが口出しする権利はな

い！ 反抗期だからって何もかもが許され
ると思うな！」

武則、恵のすぐ横を通り過ぎ、寝室へと
立ち去る。武則が去った後、恵は八つ当
たりするようにソファの背を叩く。

恵「あーっ、もう!!」

○ 中学校・教室

教室内の黒板に大きく「自習」と書かれ
ており、真面目に自習する生徒や、談笑
に耽る生徒などの中、恵は苛立った様子
でシャーペンをカチカチと鳴らしている。
その後ろの席でスマホを弄っていた愛衣、
ふと表情が一変し、恵の背中を軽く叩く。

愛衣「恵、恵！」

恵「（苛立ち交じりに）なに？」

愛衣「プラボのメルマガ！ 見て！」

恵、スマホを取り出してメールをチエツ
クする。

すると、ジェホが兵役のため活動を休止

する旨が書かれたメールマガジンが送られてきていた。

女子アナの声「続いているの芸能トピックです」

○ ニュース番組（モニタージュ）

コメントを発表するジェホの映像。

女子アナの声「人気アイドルグループ、

『Plasma Boys』のメンバー、ジェホさんが

兵役義務のため、2年間の芸能活動休止を

発表しました」

○ 新大久保駅前（モニタージュ）

涙ぐむファンの女の子の映像。

ファンA「めっちゃショックです……。プラ

ボではジェホが一番好きだったので……」

別のファンの女の子の映像に切り替わる。

ファンB「はやく帰ってきてほしいです！

ジェホがないプラボなんて考えられない

い！」

○ 建設系企業オフィス・休憩スペース

スマホでニュースを見た武則、愕然として
いる。

女子アナの声「ジェホさんは9月20日のフ
アンミーティングを最後に、活動休止期間
に入るとのことです」

○ 中学校・教室

恵が机に突っ伏している。

愛衣「元気出しなよ、恵。2年間の辛抱だよ」
七海「そうだよ、なにも引退じゃないんだし」

恵、勢いよく顔を上げる。

恵「意つつつ味わかんない!! 兵役ってなん
なん!! それってこの先、大きな戦争とか
があったら、ジェホが戦争行かなくちゃな
らないってことでしょ!! そんなことでジ
ェホが死んじゃったりしたら…!」

椅子を倒しながら立ち上がると、勢いよ
くベランダに出て行く。

○ 同・ベランダ

恵、空に向かって思いっきり叫ぶ。

恵「ふざけんな——っ !! 戦争なんか無く

なれ !! 軍隊なんて必要なくなれ !! 世界、

平和になれ——っ !!」

叫んだあと、呼吸を整えて教室の中へ。

○ 同・教室

恵、教室から出て行こうとする。

愛衣「え、どこ行くの？」

恵「トイレ掃除してくる」

七海「へー…って、トイレ掃除？ なんで？」

恵「ジェホの兵役前最後のファンミ…。もし

チケツト獲れなかったら、この先一生ジェ

ホをこの目で見れなくなるかもしれない

…！ そんなの絶対に嫌だから、チケツト

当たるように今のうちに徳積んでくる…！」

教室を出てトイレへと一直線に向かう恵。

愛衣と七海、恵を見送りながら、

七海「全人類がああなら世界も平和だわな」

愛衣「（無言で頷く）」

○ 建設系企業オフィス・総務部デスク

デスク周りをコロコロで掃除する武則。

そこへ退室していたさくらが慌ただしく戻ってきて、

さくら「葛西さんっ！」

言いながら掃除中の武則に気付く。

さくらと武則、お互いを見合って、無言で頷く。

○ 中学校・女子トイレ

恵、トイレの便座を雑巾で拭いている。

○ スーパー・駐輪場（夜）

武則、倒れている自転車を起こしている。

○ 葛西家・キッチン（夜）

恵、真剣な表情で皿洗いをしている。

○ 同・風呂（夜）

武則、真剣な表情で風呂桶を洗っている。

治美、風呂場の前を素通りしながら、

治美「ふたりとも、いつもこれだったら大助
かりだわー」

○ 夜明けの空

○ 新大久保のスイーツ店

愛衣、七海と共に、スマホ画面を睨みつ
けてチケットの当落発表を待つ恵。

画面の時計が18時ちょうどになると同
時に、メールの通知音が鳴る。

恵「きた！」

3人、それぞれ自身のスマホを見て、

愛衣「ああっつ！ チケット落ちたく！」

七海「うちも落選く！」

愛衣と七海、落ち込みながらも、心配そ
うに恵に視線を向ける。

愛衣「恵、どうだった？」

○ 建設系企業オフィス・総務部デスク

揃ってスマホを凝視している武則とさくら。そこへメールの通知音が鳴る。

さくら「きたきたきた！」

武則「頼む！」

さくら、結果を確認するなり、肩を落として項垂れる。

さくら「落ちた〜っ！ まあ倍率えぐい

とは思ってたけど〜っ！」

嘆くさくらに対し、武則は驚愕しながらスマホを凝視している。

武則のスマホには、チケットの当選を告げるメッセージ！

○ 新大久保のスイーツ店

地面に突っ伏して倒れている恵。

七海「おい、恵ー。気持ちはわかるけど、

店の迷惑になるから地べたはやめとけー」

愛衣「生配信もあるんだし、元気だしなって」

テーブルの上に投げ出された恵のスマホ
画面には、チケットの落選を告げるメッ
セージが…。

○ 葛西家・恵の部屋（夜）

ジェホのぬいぐるみを抱きしめながら、
落ち込んでいる恵。

そこへノックの音が聞こえてきて、

武則の声「恵？ 起きてるか？」

恵、無視を決め込む。

武則の声「…ファンミーティングのチケット、
どうだった？」

恵「…」

武則の声「実はお父さんな…チケット当たっ
たんだ」

恵「はあっ!!」

○ 同・2階廊下（夜）

恵の部屋の前に立っていた武則。そこへ
扉が勢いよく開いて恵が出てきて、その

拍子に扉が武則の顔面に当たる。

武則「痛っ！」

恵「ウソでしょ!! ホントに当たったの!!」

武則「本当だよ、ちゃんとご用意された」

恵、武則に掴みかかって、激しく揺さぶりながら、

恵「なんつつつで!! あたしも友達もみんな外れたのに、なんでよりによってこんなに当たるわけ!!」

武則、恵の腕を振り払って、

武則「こんなとはなんだ! お前のそういうところを神様が見てたんじゃないのか?」
恵、反論できずに黙り込むも、悔しそうに歯を食いしばる。

武則「…ただその、もしお前がどうしてもフアンミに行きたいって言うんならな…」

恵「…え？」

武則「チケット、2枚取ってあるから…。俺と一緒にいいって言うんなら…」

恵の表情が硬直する。しばらく無言で葛

藤していたが、やがて堰を切ったように、
恵「…ムリ!!」
凄まじい速さで自室へと戻り、乱暴に扉
を閉める。

○ 同・恵の部屋（夜）

恵、扉の鍵を閉める。

武則の声「おいおい！ いいのか、本当に!？」

恵「なにが楽しくて、父親と一緒に推しのフ
アンミに行かなきゃならねーんだよっ！」

自分のスマホを手に取ると、SNSの画
面を開く。

恵「こんなことで諦めてたまるか…！」
自分のSNSに「【拡散希望】9月20
日のPlasma Boys ファンミーティングのチ
ケット譲ってくれる方を探してます!!」
というメッセージを打ち込む。

○ 中学校・教室

授業中の教室で、机の影に隠れてスマホ

でSNSを見ている恵。

すると、チケット譲渡を申し出ているメッセージを発見する。

恵、声を上げそうになるも咄嗟に口を抑え、何とか堪える。

× × ×

休み時間になり、愛衣・七海と笑顔で談笑している恵。

愛衣「めっちゃラッキーだったね、それ」

恵「うん！　なんか同行予定の人が急きよ行けなくなったんだってさ」

七海「マジうらやまー」

恵、上機嫌でスマホを見るが、ふと笑顔が曇る。

取引相手のアカウントから、「譲渡希望者が多いので、明日までに3万円を指定の口座に振り込んでいただければお譲りします」というメッセージが届いている。

恵「…え…」

○ 建設系企業オフィス・休憩スペース

発売したチケットを天に掲げ、歓喜しているさくら。

さくら「本当にいいんですか〜！ マジでありがとうございます、葛西さん！」

武則、どこか寂しそうな笑顔で、

武則「うん：娘に嫌がられちゃったから。それに三好さんには、色々と教えてもらった恩があるし」

さくら「いえ、布教は信者の務めですから！でも：いくら反抗期とはいえ、相当な意地っ張りですね、娘さん」

武則「はは：。いったい誰に似たんだか：」

○ 葛西家・恵の部屋

机の上にお札と硬貨を並べ、所持金を数えている恵。

恵「貯金引っ張り出しても1万5千ちよい：。あと半分足りない：！」

○ 同・キッチン

夕飯の準備をしている治美のもとへ、恵がやってくる。

恵「お母さん、一生のお願い！ なにも言わずに、お小遣い3カ月分前借させて！」

○ コンビニ

A T Mで送金をする恵。送金が終わるなり、すぐさま取引相手へ連絡のD M。すぐに「チケットのお渡しなんですすが、ファンミ当日の手渡しでよろしいですか？」と返信が来る。

恵、迷わず「大丈夫です！」と返信する。

○ 葛西家・居間

テレビを見ながら体操をしている治美。そこへ上機嫌の恵がやってきて、

恵「あたし、来月またファンミ行くから！」

治美「あら、いいわね。お母さんも昔好きだったアイドルのコンサートとか、行きた

くなってきたわあ」

恵「行けばいいじゃん！ 会えるうちに会いに行かないと、絶対後で後悔するよ！」

そこへ帰宅してきた武則がやってきて、

武則「ただいまー」

治美「お帰りなさいーい」

恵、武則の顔を見るなり洗面になって、自分の部屋へと駆け込む。

治美「こら、恵！ …長引くわねえ、反抗期」

武則、恵の態度にしよんぼりと落ち込んだ様子。

治美、武則の肩を優しく叩いて励ます。

治美「元気出してよ。あの子が安心して反抗できるくらい、お父さんが良い父親だったことなんだと思うわよ、多分」

武則「…そうかあ？」

治美「そうよ。お父さんならどんなに反抗しても自分を見捨てない、って甘えの表れなのよ、多分。それにテレビでも『反抗期はアイデンティティの確立のためには必須』

って言ってたし。わたしたちの子育てはちやんと上手くいってるのよ、多分」

武則「…多分って3回も言ったけど…」

○ 電車内

Plasma Boys のグッズに身を包んだ完全武装の恵、電車に揺られている。

○ 一万人規模のコンサートホール・外観

○ 同・入り口前

入場を待つファンが集うホール入り口。恵、所在なさげに立ち尽くし、取引相手が来るのを待っている。

SNSで「いま会場着きました」とメッセージを送るが、返答はない。

× × ×

男性スタッフが客を誘導しにかかる。

男性スタッフ「大変お待たせいたしました、間もなく開場いたします！」

次々と客がホールの中へと入場する。

しかし未だ取引相手が来ず、ひとり取り残されている恵、不安そうな面持ち。

SNSで「大丈夫ですか？」「どこにいますか？」と催促のメッセージを次々に送るが、やはり反応はない。

× × ×

それぞれ別のグッズTシャツに身を包んだ武則とさくら、会場へやってくる。入場口に向かおうとする武則だったが、ふと開場前で立ち尽くしている恵に気付く。

武則「恵？」

さくら「どうかしました？」

武則「いや、うちの娘が…」

武則の視線を追うさくら。

恵、2人には気づかず、不安そうにスマホでメッセージを送り続けている。

武則、咄嗟に恵に駆け寄って、

武則「恵！」

顔を上げる恵、武則に気付いて驚く。

武則「どうかしたのか？」

恵、武則から目を逸らすも、堪えきれずに泣き出してしまふ。

恵「（涙声）うううっ…！」

恵の様子に驚く武則とさくら。

× × ×

その場にしゃがみこんで、顔を伏せて泣いている恵。

さくら「それ、完全に詐欺ですよ！」

武則「詐欺い!？」

さくら「一番高い席でも1万円ですよ!？」 3

万円なんてぼりすぎです！」

武則、恐る恐る恵の様子を伺う。

恵、泣きながらも、意地を張ってそっぽを向いている。

恵「わかんないじゃん！ たまたま遅れてるだけかもしれないじゃん！」

武則、厳しい目で恵を見る。

武則「恵！ この期に及んで意地を張るんじゃない！」

恵「……」

悔しそうな表情で俯き、再び泣き出して
しまう恵。

武則、恵の様子を見て深く葛藤した後、
鞆の中からチケットを取り出し、恵に差
し出す。

武則「恵、これ」

顔を上げた恵、武則の行動に驚く。

恵「……え……」

武則「騙されたお金は、高い勉強代だったと
思って諦める。その代わりに……これでジエ
木の休止前最後の姿、見てきなさい」

さくら、武則の行動に驚いて、自分の分
のチケットを取り出そうとする。

さくら「葛西さん、それならわたしが頂いた
チケット、お返ししますよ！」

武則「いや、それは三好さんにあげたものだ
から。それに……」

武則、笑顔を浮かべつつも、その眼はど
こか切なげである。

武則「…こんなオジサンが若い子たちに交じって、アイドルにキヤーキヤー言うのは場違いだろうから、いいんだ」

恵「…」

首を横に振り、武則の手を押し返す恵。

恵「あたし、いい。お父さんが行って！」

武則、負けじと恵にチケットを渡そうとして、攻防戦が繰り広げられる。

武則「お前、どこまで意地っ張りなんだ！」

いいから行けって！」

恵「だって、お父さんだってジェホ好きなんでしょ！ お父さんが行きなよ！」

武則、隙をついて恵の痛バッグの中にチケットを突っ込み、その場から走り去る。

恵「あ！」

バッグに突っ込まれたチケットを取り出し、武則を追おうとするも、既に武則は遠く離れたところへと走り去っている。武則の背中を見つめ、罪悪感に打ちのめされた表情を浮かべている恵。

○ 同・ステージ上（夜）

ステージ上に立つ Plasma Boys のメンバーたちに、惜しめない声援が注がれる。

ユヅル「それじゃあ最後に、僕たちの頼れる

リーダー、ジェホからみんなに一言……」

ジェホが感極まった表情で前へ出ると、悲鳴と泣き声交じりの歓声が響く。

ジェホ「みんなもう知ってると思うけど、今日のファンミーティングが終わったら、ボクはしばらく Plasma Boys をお休みします」

○ 同・客席（夜）

総立ちの客席の中に、恵とさくらの姿もある。

ジェホの声「ボクは必ず Plasma Boys に戻ってきます。みんなを待たせてしまうのは本当にゴメンだけど……どうか待っていてください

い」

○ 同・入り口前（夜）

開場前に集うファンたちの中に紛れて、
スマホで生配信中のファンミを見ている
武則。

ジェホの声「たとえ離れていても、ボクの心
はいつだって、みんなと一緒にいます」

武則、ライブが行われているホールを見
上げる。

○ 同・ステージ上（夜）

ジェホ、朗らかな笑顔を浮かべて、客席
に手を振る。

ジェホ「THANK YOU！ また会おうね！」

Plasma Boysのメンバーが、客席に手を振
りながらステージを去っていく。

地鳴りのような声援が会場内に響き渡る。

○ 同・客席（夜）

客席のあちこちでファンが泣いている。
恵、武則から譲られたチケットを見つめ

さくら、武則に一礼して、恵を励ますように肩をポンと叩いてから立ち去る。

武則と恵、さくらを目で見送った後、顔を見合わせる。

武則「…帰る前に、どっかで飯食べてくか？」

恵「…いい」

武則「…そっか。じゃあ、帰るか」

恵、無言で頷く。

○ 会場付近の歩道（夜）

ライブ帰りの人たちがちらほらいる道を、

恵と武則が並んで歩いている。

恵「…ねえ、ジェホのどんところが好きなの？」

武則、少し考え込んでから、

武則「やっぱり、頑張り屋なところかな」

恵「…頑張り屋？」

武則「最年長でリーダーだからって、生まれ
た国も性格も違うメンバーを何とかまとめ
ようと頑張ってる。ジェホが頑張ってるの

を見るとこう：胸がほっこりするんだよな」

恵「へえ：」

武則「そういう恵はどうなんだ？」

恵、少し考え込んで、

恵「ジェホの、ファンのことをすごく大切に
想ってくれて、誰にでも優しくして、本物の
王子様みたいなのが好き。：あと顔」

武則「（笑いながら）顔かあ！ まあ、女の
子にとっては大事だよな！」

恵「：お父さん」

武則「ん？」

恵「：ごめんなさい」

武則、驚いて立ち止まる。

恵「ジェホがお休みしてる間も、プラボのこ
と好きでいてね」

武則「：うん！ 恵こそ、他のアイドルに浮
気するなよ？」

恵「はあ？ するわけないでしょーが！ あ
たし、基本は箱推しだから！」

少し怒った様子でさっさと先に行く恵を、

武則が慌てて追いかける。

武則「ごめんごめん！ 冗談だって！」

2人並んで去っていく恵と武則の背中。

○ 葛西家・外観

2年後のテロップ。

恵の声「ちよっと、お父さんっ！」

○ 同・居間

恵、怒った様子で、ソファに腰かけている武則にバスタオルを突き付ける。

恵「これ、あたしの専用バスタオルって言うたじゃん！ 昨日勝手に使ったでしょ！」

武則「いや、お母さんが置いてくれたから……」

恵、洗濯物を畳んでいる治美に詰め寄り、

恵「お母さん！ なんでそんなことすんの!？」

治美「いいじゃないのよ、家族なんだから全員共用で」

恵「イヤ！ あたしもうこれ使わないから！」

バスタオルを治美に突っ返し、自分の部屋へと去っていく。

治美「ちよつともー、せめて畳んでいきなさいよ！」

渋々バスタオルを畳みながら、武則に向かって苦笑いする治美。

治美「ほんとに長引くわねー、恵の反抗期」
武則「まあ、一時期よりはマシになったよ…」

○ 同・恵の部屋

恵、スマホ片手にベッドに寝転がる。
するとそこへメールの通知音が鳴り、恵の表情がパツと明るくなる。

○ 同・居間

スマホから通知音が鳴り、武則が自分のスマホを確認すると、心から嬉しそうな笑顔になる。
すると勢いよく階段を駆け下りる音が聞こえてきて、恵が居間へとやってくる。

恵「お母さーんっ！　どこか掃除してほしいところある!!」

治美「なに、急に？」

恵「いいから！　今のうちに徳積まないと！」

武則、急いでソファから立ち上がり、

武則「トイレは俺がやる！」

トイレへと駆け出す武則を、恵が慌てて引き留める。

恵「あっ！　抜け駆けズルい！」

武則「はっはっは！　こういうのはスピード勝負なんだよっ！」

恵「いーやー！　今回こそはあたしが当ててやるんだからーっ!!」

わちゃわちゃと争い合う恵と武則を見ながら、治美が不思議そうに首をかしげる。

治美「なによ、もー。わっかんないな〜」
ソファの上に投げ出されたスマホの画面には、復帰を発表したジェホの笑顔の顔写真の画像が映る。（終）